

令和元(平成31)年度 自己評価

令和2年2月28日



岡山科学技術専門学校

令和元年度 自己評価

岡山科学技術専門学校

I 学校の目標

岡山科学技術専門学校は、「技術教育を通じての人間教育」の理念の下、高度産業社会の科学的発展に寄与する優秀な技術力を持つ専門技術者を育成することを目標に教育活動を展開する。

II 本年度定めた教育活動の具体的方針

社会は情報化・国際化・少子高齢化が一段と進み、職業教育の重要性が一層高まる中、平成31年4月には「専門職大学」が開校、また令和2年4月には高等教育の無償化がスタートする。選ばれる学校、認められる学校として、職業教育の水準のさらなる向上が求められる。

これらを踏まえて、本校ではPDCAサイクルの機能を教育実践に活用している。基本的な流れとしては校長の定める教育活動方針に従い、学科ガイドブック等(Plan)を作成し、教育活動を実施(Do)、年度末に自己点検(Check)を行い、次年度の教育活動方針に反映(Action)させるという構成となる。このうち最も重要な自己点検(Check)の中心を担っているのが自己評価である。

令和元年度の教育活動方針は、「共有と協調」をキーワードに、教職員の資質・能力の向上とともに、企業や関係部署との連携を強化し、本校の特色を生かす教育の一層の充実・発展に努めることを具体的方針として挙げた。

III 評価項目の達成及び取組状況

表の数字の、左欄は自己評価の平均値、右欄は肯定的人数(4または3と答えた人数)の割合(%)を示す。また、()内の数字は昨年度の値を示す。なお、数字左の記号で、○は平均値が0.2ポイントかつ割合が10ポイント以上アップ、△は平均値が0.2ポイントアップを示す。●は平均値が0.2ポイントかつ割合が10ポイント以上ダウン、▲は平均値が0.2ポイントダウンを示す。割合右の矢印で、↑は2年連続アップ、↓は2年連続ダウンを示す。

総括

令和元年度自己評価では、いくつかの項目に対する評価が大きく低下(▲または●)しており、日本人学生の減少と留学生の急激な増加に対する不安と、学校としての対応の遅れに対する懸念が伺われる。ただ、▲または●のついた項目には↓がないため、長期的な傾向とは言い難い。これらの問題への対応が喫緊の課題であることを岡山科学技術学園に対し報告したい。併せて、学校を挙げて日本人受験生を増やすための募集広報活動に邁進したい。

一方で、↑が付いているにもかかわらず評価が低下した項目(3教育活動5. 8. 9. と4学習成果4.)があり、学科ごと・個人ごとの取り組みに差があることが明らかとなった。これらの項目は、令和元年度教育活動方針に挙げた具体的方針との関連が深い部分も多かった。

令和2年度には、「岡山科学技術専門学校 三つの方針(募集方針、教育目標、到達目標)」を策定することを目指している。これに、令和元年度の自己評価の結果を加味し、令和2年度の教育活動方針では、カギセン教育の原点に立ち返り、技術教育のあるべき姿を見直すことに力点を置きたい。

1 教育理念

(1) 評価項目

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	学校の理念・目的・育成人材像は適切に定められているか	3.3 (3.4)	94.5% (94.8)

2	学校の特色はうまく（適切に）表現できているか	3.0 (3.1)	74.5% (77.6)
3	学校・学科の将来構想（3～5年を見据えた）を抱いているか	●2.5 (2.9)	55.6% (67.2)

（2）現状の概要

本校の教育理念、目的、育成人材像については、教育活動方針に定め、学校案内や学科ガイドブック等で具体的に示すとともに、学生、教職員に徹底するべく取り組んでいる。

本校の教育目標は、高度産業社会の科学的発展に寄与できる優秀な技術者の育成である。専門教育の充実、資格取得の推進、進路指導の充実、学生指導の充実を教育活動の柱とし、社会の変化に柔軟に対応できる人材の育成に努めている。

現在、当校にとって最も重要な問題は、学科定員の確保である。これまで日本語学科の設置、留学生専科の国際自動車工学科の設置などの対策を行い、日本人の減少を留学生でカバーしてきたが、結果として留学生の割合が急増している。特に、令和2年度入試では一部学科に願書が集中したため定員の変更等で混乱したこともあり、学校・学科の将来構想に関する評価が大きく低下した。

（3）いただいた意見

- ・年々増加する留学生に対応した教材の充実が求められているのでは。
- ・指導方法が学科ごとに異なるため、学生指導や教育にバラつきがある。

（4）考察

令和2年度には「三つの方針（募集方針、教育目標、到達目標）」を策定し、本校教育の在り方を見直すとともに将来の方向性を明確にしたい。

2 学校経営

（1）評価項目

評 価 項 目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	目的に沿った運営方針が策定されているか	●2.9 (3.1)	72.7% (89.3)
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	●2.8 (3.1)	65.5% (82.1)
3	運営組織や意志決定機能は明確になっているか	2.8 (2.8)	64.3% (63.6) ↑
4	人事・給与に関する規定等は整備されているか	3.1 (3.2)	81.8% (82.1) ↓
5	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3.4 (3.4)	96.4% (94.9) ↑
6	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	2.8 (2.9)	69.6% (70.9)

（2）現状の概要

本校教育を取り巻く諸情勢を踏まえて経営方針、教育活動方針を策定し、年度当初の教職員全体会議において非常勤を含む全教職員に周知するとともに、職場懇談会等で適宜確認をしているが、運営方針に関する項目の評価が低下した。急激な留学生の急増と日本人の減少に起因するものと思われる。

学校経営については、組織や分掌等の周知や協議内容等の情報の共有を図り、計画の実現に向け組織的な運営に努めている。

また、運営組織に関しては組織図及び職務分掌に基づき、階層的に権限・義務・責任を設け、

意志決定の明確化に努めているとともに、就業規則並びに賃金規程を整備し、人事評価等を適正に行っている。

情報公開に関しては、学校概要、教育活動方針、シラバス、進級・卒業要件、自己点検・自己評価、学校関係者評価等の情報はホームページ上で公表している。

情報システム化については、事務効率の効率化を目標に、今後とも迅速な対応に努めたい。

(3) いただいた意見

1. 学校と学生の状況を理解した運営が必要。
3. 連携が不十分で、下の意見が上に届いていない、響いていないように感じる。
4. 報酬が平等となるよう、制度の改定をお願いしたい。
6. 全スタッフの日単位、月単位の動向を把握できるようなシステムが必要。

(4) 考察

経営方針、教育活動方針については、今後とも機会をとらえて周知を徹底したい。

3 教育活動

(1) 評価項目

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	教育理念等に沿った教育課程を編成しているか	3.1 (3.2)	87.3% (93.0)
2	学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	▲3.0 (3.2)	80.0% (84.2)
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	▲3.0 (3.2)	80.0% (87.7)
4	授業評価の実施・評価体制はあるか	▲3.2 (3.4)	85.5% (91.2)
5	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.2 (3.3)	83.3% (82.5) ↑
6	資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	3.2 (3.1)	90.6% (86.0) ↑
7	指導力のある教員の確保に努めているか	2.6 (2.6)	52.8% (58.2) ↓
8	先端的な知識・技術・技能等の教員研修や指導力など資質能力向上の取組が行われているか	2.9 (3.0)	83.0% (78.9) ↑
9	教職員の能力開発のための研修が行われているか	3.0 (3.1)	81.1% (76.8) ↑

(2) 現状の概要

教育課程は、教育理念、教育活動方針、学科教育方針および教育課程編成委員会での提言も踏まえて編成され、学科ガイドブックとして公表している。この中では育成する学生像、授業時間数や到達レベルを明示しているが、これらに関する項目の評価が低下した。学生の能力差や留学生の増加により、教育到達レベルにバラつきが生じていることに起因すると判断している。

授業評価は、教育の質の向上の観点から教員評価の一環として位置づけ、学生による授業アンケートを年2回、教員による授業評価を年1回実施し、管理職による授業評価と合わせ総合的に評価している。

教員の資質能力の向上に関しては、年間を通して系統的、計画的に教員研修を実施するとともに外部講師を招聘した講習会やテーマを設けた公開授業等を実施している。併せて資質・能力、指導力、豊かな人間性を備えた教員の確保に努力しているが、技術者不足の影響もあり苦労している。

(3) いただいた意見

7. 報酬を見直してでも、指導力のある教員の確保に努めてもらいたい。
7. 日本語学科の教員は、全国的に不足している。
8. 資質能力の向上には、働く環境の改善が必要である。
9. 授業のため研修に参加できないことが多いので、考慮してほしい。

(4) 考察

今年度、教育活動の具体的方針として挙げた「職員の資質・能力の向上」「本校の特色を生かす教育の一層の充実・発展」に関連する項目でもある。令和2年度には「三つの方針」の策定を行うが、この中で改めて学科ごとの教育目標、到達目標を明確にする予定である。教育到達レベルやカリキュラム編成の項目の評価が下がったことは、教職員の関心が高まっているためと肯定的にとらえている。

ただ、5. 8. 9. の項目では肯定的意見が増えている(↑)にも関わらず評価が下がっており、不適切と感じている意見も目立つことを表している。学科または個人ごとの教育活動の足並みが乱れているようなので、教育活動を見直すとともに教職員の研修方法も再考したい。

4 学修成果

(1) 評価項目

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	就職率の向上に努めているか	3.4 (3.4)	88.7% (89.3) ↓
2	資格取得率の向上に努めているか	3.4 (3.3)	98.1% (91.2) ↑
3	退学率の低減に努めているか	●2.8 (3.0)	67.3% (80.7)
4	卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.8 (2.9)	82.2% (68.4) ↑

(2) 現状の概要

専門学校にとって、資格取得と就職率は生命線である。学生一人ひとりの適性を生かした資格指導と就職支援に努めており、安定した成果が出ている。

本年度は前期での退学者が多かったため、この項目の評価が下がった。その後、学生の観察に努めるとともに、家庭との連携を密にした指導を行った結果、後期の退学者は減少し、通年では例年程度の退学率とすることができた。ただ、共働きが増えているため家庭連絡、家庭訪問の時間も設定しにくくなっており、今以上のレベルでの教職員(担任、学科、課)の相互協力が必要になっている。また留学生の場合は退学率に加え、授業料滞納などによる除籍率も高い。家庭連絡も難しく、対応に苦慮している。

工業専門課程の卒業生については半年後に現状確認を、就職先の企業に対しては5年間の追跡調査を行っている。また、企業からの意見や課題等については、各学科へフィードバックし、指導内容・指導方法の改善に努めている。

(3) いただいた意見

1. 2. 学生は、資格取得および就活に頑張っていると思う。
3. 努めているとあるが、成果が伴っていない。
4. 離職する学生が多いので、卒業生のフォローは必要と思う。
4. 卒業生の情報を共有したい。

(4) 考察

現在、留学生の出身国は10カ国にのぼっているが、教職員で対応可能な言語は英語、中国語、

ベトナム語に限られている。専門の通訳をお願いしたこともあったが予約が必要なことなど制約が多く、また外国語に対応できる常勤職員をこれ以上増やすことも難しい。今後とも検討が必要である。

5 学生支援

(1) 評価項目

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.0 (3.1)	80.0% (81.0)
2	学生相談に関する体制は整備されているか	2.8 (2.8)	67.3% (63.2) ↑
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2.8 (2.6)	65.5% (63.2) ↑
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	2.7 (2.7)	56.4% (57.9)
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	2.7 (2.7)	55.6% (59.6)
6	保護者と適切に連携しているか	▲2.9 (3.1)	77.4% (85.5)
7	卒業生への支援体制はあるか	2.6 (2.7)	50.9% (60.7)

(2) 現状の概要

学生支援に関しては、担任を中心に組織的・計画的な体制の確立に努めている。併せて、電話連絡や家庭訪問等で保護者と連携した肌理細やかな指導を心掛けており、日本人に関しては安定した評価となっている。ただ、前項の4学修成果と同じく留学生の支援には十分な成果が得られていないと感じている教員が多いことも感じられた。

また、創立30周年を機に、工業専門課程の卒業生については、同窓会との連携が進んでいる。今後とも卒業生相互の絆を深めるとともに、動向把握に努めてゆきたい。一方、日本語学科卒業生は同窓会会員となっていないため、他校への進学者(日本語学科卒業生の約40%)については支援体制がない。

(3) いただいた意見

2. 4. 6. 業務が多く、学生の支援が出来る状態ではない。
2. 日本語学科のOC参加時期が制限されたため、受験に影響を与えた。
4. 校医やカウンセラーの設置など、改善の余地がある。
6. きめ細やかな指導ができているとはいえない。特に留学生の保護者との交流は皆無である。
7. 卒業生の支援体制は十分ではない。

(4) 考察

日本語学科卒業生の同窓会加入については、今後とも継続して検討したい。

6 教育環境

(1) 評価項目

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備されているか	▲2.5 (2.7)	51.8% (60.3)

2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	●2.8 (3.0)	69.2% (80.7)
3	防災に対する体制は整備されているか	2.9 (2.9)	75.0% (75.9)

(2) 現状の概要

施設・設備は、専門教育の推進に対応できるよう、優先順位を設けて整備に努めている。本年度予算では実習設備等の充実を十分に行うことができていないが、技術の進展や養成施設での要件等を考慮しながら、設備の更新や新設を進め現場に即した学習内容の充実を進めている。

学校での事前・事後指導も含め100時間程度のインターンシップを奨励している。また、企業での先端技術習得に向けた研修やイベント等へも積極的に参加している。なお、海外研修は今年度も未実施である。

安全点検や避難訓練、救命法講習会を実施し、教職員の安全意識の向上、迅速な危機対応能力の向上に努めている。

(3) いただいた意見

2. 海外研修は高額となるため、実施が難しい。
2. インターンシップが増えたため、補習授業が難しくなっている。
3. 避難訓練の頻度を上げ、学生も参加させるべきである。

(4) 考察

年2回のアンケート調査による学生の要望等については丁寧に回答し、学生の学習意欲の向上に繋げたい。

令和2年度のインターンシップに関しては、教育的効果の向上を目的に、実施時間にこだわらない取り組みを行いたい。

防災に関しては危機管理マニュアルの内容を充実させ、適切な防災対策・緊急対応に努めたい。

7 学生の受け入れ募集

(1) 評価項目

評価項目		4：適切 2：やや不適切	3：ほぼ適切 1：不適切
1	学生募集活動は、適正に行われているか	●2.5 (2.8)	46.3% (69.3)
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	2.7 (2.8)	54.7% (69.0)
3	学納金は妥当なものになっているか	3.1 (3.2)	84.9% (86.0) ↓

(2) 現状の概要

広報企画課を中心に、各学科と連携して計画的な高校訪問やガイダンスへの参加に努めているが、日本人受験生が伸び悩んだため、学生募集活動に関する評価が低下した。また、日本語学科入学希望の留学生についても、意欲、学力、経済的な面等を総合的に判断した適正な受け入れに努めている。教育成果は、ガイダンスや高校訪問等において正確に伝えるとともに、ホームページ上からも定期的に発信している。

(3) いただいた意見

1. 留学生に関しては、数とともに質も重視すべきである。
1. 文系の学科も検討した方が良いのでは？
1. 2. 募集活動が適正に行われていればもっと増えているはずである。学科の内容を理解し広報には頑張ってください。

(4) 考察

来年度は広報企画課と各学科との連携を一層強化したい。特にオープンキャンパスの内容を精査し、受験生の増加につながる努力を行いたい。

留学生については、日本での就職を念頭に、入学時から目的意識、日本語能力、経済状況などを的確に把握し、4年間の教育という観点を踏まえた適切な指導・支援・対応に努めており、成果が出てきた。今後は、学力レベルが高く、目的意識のしっかりした留学生を入学させることを目指したい。

8 財務

(1) 評価項目

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	●2.2 (2.6)	24.0% (62.0)
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	●2.5 (2.9)	46.9% (68.0)
3	財務について会計監査が適性に行われているか	●3.0 (3.3)	79.2% (90.0)
4	財務情報公開の体制整備はできているか	3.1 (3.2)	79.6% (84.0)

(2) 現状の概要

学校の中長期的経営基盤は安定しており、予算・収支計画は事業計画に基づき適正に執行されていると言えるが、今年度は日本人学生が伸び悩んだため、評価が低下した項目が多かった。また、財務状況は理事会の監査を経た後、HP上に公表している。

(3) いただいた意見

1. 資金繰りのためには、学生数、特に日本人の増加が必要だが現状は厳しい。賞与等が不安である。
2. 留学生の入学者数が安定しないため不安材料が多い。もしもの時に備えた予算計画が必要。

(4) 考察

今後も学生の確保に努め、財務の健全化に努めたい。

9 法令等の遵守

(1) 評価項目

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.3 (3.3)	92.6% (93.0)
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.3 (3.2)	92.6% (93.0)
3	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3.1 (3.1)	83.6% (83.9)
4	自己点検・自己評価結果を公開しているか	3.4 (3.4)	94.4% (94.7)

(2) 現状の概要

法令及び専修学校設置基準を遵守し、各法令に準拠した適正な学校運営がなされている。個人

情報については、コンプライアンスに基づき厳重な管理がなされている。また自己点検・自己評価を実施しており、結果と問題点の改善状況をHP上に公開している。

(3) いただいた意見

3. 問題点の改善に取り組んでいるとあるが、成果が目に見えない。少なくとも教員の意識改革にはつながっていない。

(4) 考察

各部署での分析、総括を踏まえ、課題を共有し改善を目指すとともに、今後も法令遵守に努めたい。

10 社会貢献・地域貢献

(1) 評価項目

評 価 項 目		4 : 適切 2 : やや不適切	3 : ほぼ適切 1 : 不適切
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.1 (3.0)	81.8% (78.6) ↑
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	●3.0 (3.2)	74.5% (92.9)
3	公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	2.9 (2.9)	76.4% (73.2) ↑

(2) 現状の概要

大学生へのペインティング指導や各種団体への貸校舎等による本校施設の活用を通じて、地域貢献を行っている。また、学生課の重点目標にボランティアの推進を掲げ、清掃ボランティア、災害ボランティアへの参加を促し、意識は徐々に高まってきている。特に、留学生の意識が高く、積極的な参加が見られた。評価が下がっているように見えるが、昨年度は西日本豪雨のボランティア参加者が多かったことが要因で、例年に比べれば高い水準と言える。

高校等への出前授業、子供向けイベントや各種イベントにも積極的に取り組んでいる。また、専門実践教育訓練の施設として5学科が認定を受けている。また、社会人も受講可能な二級建築士試験講座の開講も行っている。社会人の学びの場としても、今後さらに教育の充実を図り、社会のニーズに応えていきたい。

(3) いただいた意見

2. 学生の興味を惹くような、あるいは専門知識に関連のあるような多彩なボランティア活動を紹介してはどうか。また、授業の一環として実施することができないか。

(4) 考察

学校教育法では、学校は地域住民に対して説明責任があり、その理解と協力を得ることが明記されている。このためにも地域・社会に求められる学校、貢献する学校となれるよう、今後ともボランティア活動への参加を積極的に促すとともに、学生の自主的な活動も支援したい。

令和元年度教育活動に関する評価

1 6S 管理の徹底（安全意識の醸成）

評 価 項 目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	職員室（事務室も含む）の整理、整頓はなされている	○3.7 (2.9)	94.2% (78.9)
2	HR 教室の整理、整頓、清掃はなされている	3.0 (2.9)	76.8% (73.7)
3	実習工場（高柳）、実習室（昭和町）の整理、整頓、清掃はなされている	3.1 (3.1)	87.0% (89.3)
4	授業（実習・座学）は学生が意欲を持って取り組む、わかりやすいものを目指して日々工夫をしている	▲2.9 (3.1)	81.0% (83.6)
5	授業、校外研修等において、常に細心の注意を払い、事故のない指導を心掛けている	3.3 (3.3)	94.5% (94.5)
6	授業始業時、終了時のあいさつや授業態度の指導など、マナー、躰指導に継続的に取り組んでいる	3.1 (3.1)	87.3% (78.6)
7	安全を意識した指導を徹底している	3.3 (3.3)	94.5% (91.1)

ご意見、お気づきの点

- ・整理整頓ができているクラスとできていないクラスの差が大きい。
- ・HRの6S指導に関しては、さらなる努力が必要である。
- ・日々努力している教員と、ルーティンワーク化している教員がいる。
- ・全教職員で学生の学習環境を整備する必要がある。

2 専門教育の充実（教育の質の保証）

評 価 項 目		4：よい 2：やや不十分	3：ほぼよい 1：不十分
1	教える内容を精査し、基礎・基本の定着を図っている	3.2 (3.2)	90.6% (85.5)
2	個々の能力を伸ばすため、学生が主体的に学ぶ授業の工夫に努めている	3.0 (3.0)	79.2% (80.0)
3	認定学科として、職業教育の充実に向けた取組が、計画通り進んでいる	3.0 (3.0)	75.0% (79.6)
4	身に付けさせる能力について、学科教員との話し合いに努めている	▲2.8 (3.0)	69.8% (74.1) ↓
5	企業と連携した実習は効果的に行っている	3.3 (3.3)	94.2% (84.9)
6	企業と連携したインターンシップは効果的に実施できている	3.2 (3.3)	88.5% (86.8) ↑
7	目指す資格を明確に示している	3.5 (3.5)	98.1% (98.2)
8	学科を挙げた組織的で徹底した指導を行っている	3.1 (3.1)	86.5% (80.0)

ご意見、お気づきの点

- ・学生のアルバイト、奨学金につながるような企業がもっとあればよい。
- ・学生の能力なりの教育指導となっているのが現状である。
- ・学科内でのコミュニケーション、意思疎通が十分とは言えない。
- ・改善に向かって取り組む意欲が、学科長レベルでも低い。

3 学生指導の充実（情報の共有）

評 価 項 目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	あいさつの徹底（思いやりの心を育む）に努めている	3.0 (3.1)	76.8% (82.1)
2	授業の工夫・改善に努め、学ぶ意欲の高揚を図っている	3.0 (3.1)	81.5% (83.9) ↓
3	真面目に授業を受ける指導を行っている	3.1 (3.1)	85.5% (89.1) ↓
4	個人面談や声掛けを大切にし、学生把握に努めている	3.2 (3.2)	92.6% (87.5)
5	電話連絡や家庭訪問等で保護者との連携を密にし、きめ細かい指導を行っている（進級率・卒業率 95%）	▲2.9 (3.1)	76.9% (81.8)
6	禁煙指導や感染症の予防等の健康管理、気になる学生の支援に努めている	3.1 (3.2)	85.2% (85.5)

ご意見、お気づきの点

- ・挨拶をしない教員がいるなど、一丸となった指導が出来ていない。
- ・教員の意識改革が必要。
- ・留学生は喫煙率が高いので、禁煙セミナーを行った方が良いのでは？

4 進路指導の充実（就職内定率 100%、卒業生の把握）

評 価 項 目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	就職指導の充実に向け、進路指導課と学科の連携ができている（内定率 100%）	3.1 (3.1)	79.2% (77.4) ↑
2	企業訪問を積極的に行っている	▲2.8 (3.0)	62.7% (71.7)
3	一般教養の充実に努めている	●2.8 (3.0)	68.6% (79.2)
4	ビジネス教養の充実に努めている	▲2.8 (3.0)	74.5% (79.2)
5	進路指導課と学科の連携を強化し、就職支援と卒業後の離職等も含めた動向確認に努めている	2.9 (2.9)	73.1% (73.6)
6	就職先企業や企業後援会、同窓会との連携を図り、卒業生の職場定着に努めている	2.9 (2.8)	74.0% (66.0) ↑

ご意見、お気づきの点

- ・ビジネス教養の勉強をしていないので、授業の進め方が難しい。
- ・同窓会との連携はあまりできていない。

5 留学生の指導・支援体制の充実（情報の共有）

評 価 項 目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	日本語能力向上に向けた組織的、計画的な指導に努めている	●2.6 (2.9)	52.8% (68.5)
2	進学指導の充実のため、ガイダンスや専門学科の授業見学が、組織的に行われている	▲2.5 (2.7)	52.8% (59.3)
3	専門科目をわかりやすくするための指導方法の工夫がなされている	2.8 (2.9)	69.8% (66.7)
4	就職に向けたガイダンスやインターンシップの実施が、組織的に行われている	2.8 (2.7)	69.2% (60.8)

5	生活実態（出欠、アルバイト、宿舎等）の把握に努めている	3.1 (3.0)	85.2% (79.6)
6	文化や言語の理解を深めるための研修が行われている	2.3 (2.3)	29.6% (33.3) ↓

ご意見、お気づきの点

- ・学科内の意見交流が少ない。
- ・日本人と留学生の交流の場がもっとあればと思う。
- ・留学生の日本語能力に対する対策が必要。
- ・留学生とのかかわりが少ない人は特に、日頃から国際交流のイベント等に参加することを心掛けていただきたい。
- ・日本語学科の学生に対するベネフィットが少ないように感じる。

6 学生確保対策

評 価 項 目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	多角的な情報分析、計画的な高校訪問など、学生確保に努めている	●2.6 (2.8)	54.9% (69.1)
2	広報企画課と学科との情報交換を密にし、学科情報の効果的な発信に努めている	●2.5 (2.8)	56.9% (70.9)
3	オープンキャンパスの充実を図り、歩留まり率向上（65%以上）を目指している	●2.8 (3.0)	69.8% (80.0)

ご意見、お気づきの点

- ・情報交換が十分できていない。
- ・やりたいとは思っているけど積極的に参加出来ていない教職員もいると思う。
- ・上記3項目以外にも対策はあると思う。もう一度原点に返り検討していただきたい。
- ・J科の学生がOCに参加できなかったことは残念。

7 教職員の資質・能力の向上

評 価 項 目		4 : よい 2 : やや不十分	3 : ほぼよい 1 : 不十分
1	3回の面談（当初、中間、最終）等で意見交換ができています	3.2 (3.1)	87.5% (86.8) ↑
2	校内教員研修や企業研修会等に積極的、計画的に参加している	3.0 (3.1)	83.3% (85.2)
3	公開授業、授業見学が計画的に行われ、授業改善に努めている	▲3.1 (3.3)	87.3% (87.0) ↑
4	資質、指導力向上のため資格取得に挑戦している	2.8 (2.8)	66.7% (64.8)

ご意見、お気づきの点

- ・限られた時間の面談では、表面的な事柄しか話せていないと感じる。
- ・公開授業の日程が授業と重なったため、参加できなかった。
- ・公開授業は自分の授業を改善するつもりのある人しか参加しない。